



市民派選挙を応援してきました

4月24日朝、福井県敦賀市へ女性市議の選挙の応援に出かけました。新幹線と在来線を乗り継いで午後1時敦賀に到着。選挙事務所まで打ち合せをしてそのまゝ選挙カーに。

今大地晴美(こんだいはるみ)さんは、2期目を目指しての立候補です。昨年、秋、八丈島の町議選で私のために敦賀から応援に来てくださったので、今度は私が恩返しをする番(半年前、八丈町のデポジット事業を視察するため来島したのが縁)。また、なりたて町議の、八丈町にお役にあたるかどうかと思いましたが、市民派議員の今大地さんには何としても当選してほしいです。

晴美さんの選挙スタイルは「辻立ち」です。私は密かにスピーチを用意していましたが、1回目「もっと短く!」の指示。2回目も「まだ長い!」と言われさらに締めました。晴美さんの3分の演説と私の応援スピーチをセットにした「辻立ち」を、その日の午後3時38分過ぎました。翌日は調子も出てきて朝8時から1時までに40ヶ所を回りました。午後は晴美さんが一人でスピーチし、私は旗持ち。その夜の立会い演説会にも出席し、応援演説もしました。ぎっしり詰まった2日間でした。

なぜ、晴美さんはこれほどまで「辻立ち」にこだわるのでしょうか。「まわりに誰もいなくても、家の中で必ず誰かが、家事をしながら仕事をしながら聞いてくれる……そう信じてその一人に語るように自分の信念を伝えていくことが大切だ」と晴美さんは言います。だから決して絶叫はしません。晴美さんの選挙カーは礼儀正しく静かです。

その晴美さんを支えるのは、ボランティア。うぐいす嬢も運転手もです。ボランティアの応援だから、候補者に言いたいことを言います。時には候補者に指示さえも。晴美さんもバリアフリーの関西弁で言い返したり愚痴をこぼしたりギャグを言ったり。互いに遠慮しない対等の関係です。選挙費用もすべてカンパでまかないました。事務所では酒は一切受け取らないし、誰も飲みません。もちろん飲食の提供はなしです。運動員の弁当も決して豪華とは言えません(でも美味しかったです)。候補者同士のマナーでも、媚びない姿勢は徹底していました。

これまでの選挙でみられた政治姿勢・手法とは対極的なさわやかな市民派選挙。マスコミで報道される選挙違反や贈収賄事件とも無縁です。これが、立候補者が選挙にのぞむ際のあるべき姿だと思いつながら敦賀を後にしました。翌々日、ネットで選挙情報を見ながらドキドキ。そして深夜1時すぎに当選が決まりました。28議席中13位(前回20位)。候補者37人の、大接戦の中での勝利でした。

こんどははるみ、
こんどははるみ、
こんだいはるみ、
と書いて下さーい



議会活動の記録

5月8日全員協議会、5月13～15日要望活動、21日議員研修会、22日～23日行政視察、29日臨時議会、6月6日定例議会、6月11日総務文教委員会

行政視察報告 今年も伊豆大島へ

大島では温水プールがすでに出来ていて活用されているそうです。温水プールの署名運動が進むなか、実際に見ておきたいし、またゴミ問題について共通の悩みを抱える島の実情も知りたいたいと思って大島を選びました。また、同行した沖山議員とともに、福祉施設「すばる」と特養老人ホーム「椿の里」の視察も希望しました。案内は大島町保健衛生課長の藤井氏。長年福祉を担当してきたベテランで昨年衛生課に移動したとのことでした。何を聞いてもすらすらと即答。しかも朝から夕方まで実にいいねいに案内してくださいました。職員はかくあるべし、との思いを強くしました。

福祉施設

「すばる」はバリアフリーの宿泊施設。内地で企業戦士だった方が、退職後ご夫婦で経営しています。車椅子で自由に動き回れるきめ細かな設計。トイレにもバスにも様々な工夫がなされ、ウーンとうなってしまう心配りでした。東京都は、全国に33ヶ所の障害者向け保養ホームを指定しているそうですが、都内ではここ大島の「すばる」だけだそうです。

オーナーは、バリアフリーの施設が大島以外の島にもできることを望んでいました。ここを訪れた障害者の多くは、島の人に「心のバリアがない」とビックリするとか。だから心からリラックスして旅を楽しめるのだそうです。島には世界に名だたる観光名所はないけれど、それに代わる島人の人なつこさがある、これこそが観光資源だという発想。オーナーのように島外者の視点で島の価値を再認識することが、八丈においても大切だと思いました。



特養ホーム「椿の里」は、10年前にホーム開設20周年記念事業として建設されたとか。入所定員は100人。部屋のつくり、廊下、付属施設のそれぞれにきめ細かい工夫が満載されています。一人部屋が多いのにも驚きました。調理配膳室も広々しています。徘徊する人が外に出ないような工夫、採光にも気を配っています。さらに施設長の考え方には感動しました。設計段階から、入所者やヘルパー、看護師など施設に関わる人達と何度も話し合いをもって、納得のいく施設をつくったのだそうです。案内するときの話振りからもその誇りと自信がうかがえました。

温水プール



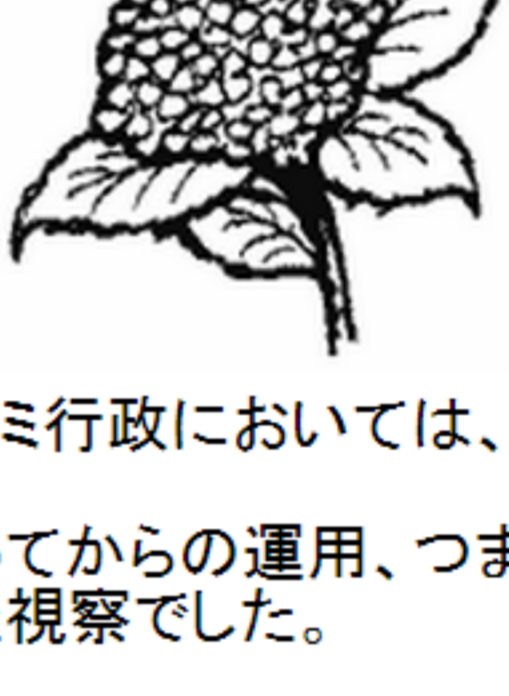
御神火温泉は、町営の天然温泉で、様々なお風呂、温水プール、レストラン、休憩室などを備えた保養施設。元町港から歩いて数分のところにあり、船待ちの観光客にも利用されるほか、プールは町民の水泳教室やリハビリ訓練にも利用されています。総建築費15億円。年間の赤字額は、約7千万円。

苦しい財政事情ではあっても、住民の福祉向上に役立てばやむを得ないとの判断のようです。八丈でも温水プール建設の要望が出ていますが、こうした多目的施設だと建設費が膨大になるので、目的を絞ってスリムな設計を目指すべきと思いました。

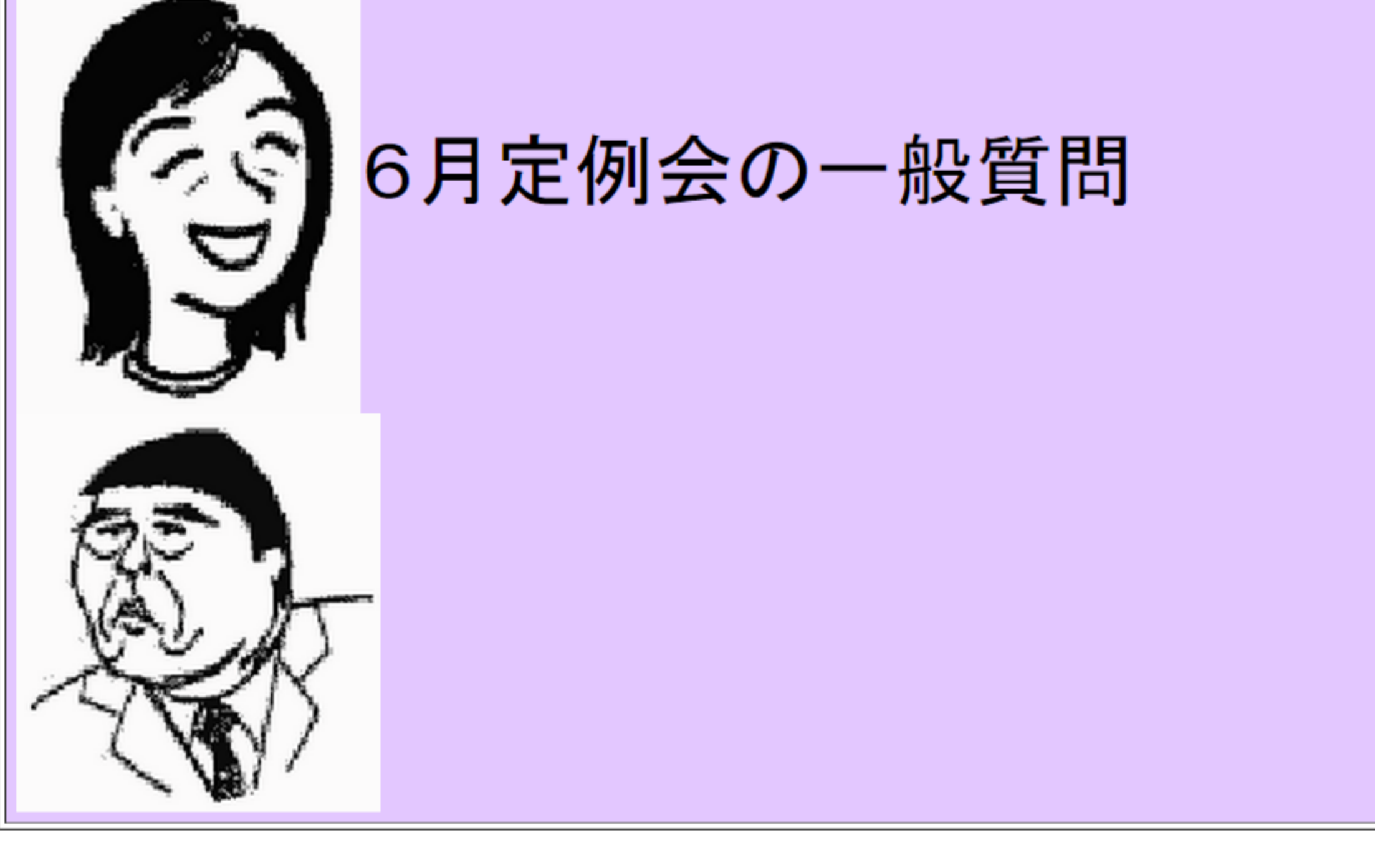
ゴミ処理施設(焼却場、処分場など)

ゴミ焼却場は野増地区にありました。規模はかつての永郷地区の焼却場を思わせるもので、生ゴミの臭いが充満していました。ここで出た焼却灰は八丈と同じく大田区の溶融施設に送られます。缶やビンなどの分別もようやく始まったばかりで、焼却場とは別の地区にありました。昨秋よりここに発泡スチロール処理施設もつくられましたが、手作業のため経費と時間がかかりすぎるとのことでした。現在は、ゴミ収集袋もまだ黒いビニール袋ですが、近く半透明の炭酸カルシウム入りの袋に替えるとのことでした。この際ゴミ袋の有料化も検討中とか。

八丈の中之郷にあるような安定型の処分場が、南部地域の山奥にありました。課長は見せるのが恥ずかしいと言いつつ説明してくれました。木株、タイヤ、建築廃材、コンクリート廃材などがそれぞれ分類されて山積みされていました。八丈町で今最大の関心事である管理型最終処分場は、大島では、このさらに山奥に建設を予定しているそうです。アスファルトコンクリート再生工場は、八丈をならって近くつくるとのことでした。大島町のゴミ処理にかかる経費は年間約4億。同じ人口規模で、八丈町は約3億だからこの点ではちょっと自慢できますが、さらに節約する努力をしなければと自慢できません。全体として、ゴミ行政においては、八丈は大島よりかなり進んでいるという印象を持ちました。



また、すべての施設で建物を建てるまでの過程と出来あがってからの運用、つまりソフト面をいかに充実させるかが重要だということを確認した視察でした。



6月定例会の一般質問

1 デポジット制度の見直し案について

定例会ではこの質問をしたのですが、この後大きな展開があったのでここでは省略し(HPIに載せております)、現状報告と感想を別掲します。

2 八丈島牛乳を支えるために

この4月から生産者乳価が引き下げられ、八丈島牛乳の将来が懸念されています。幸い、ふれあい牧場ではBSE対策牛導入事業で、今年13頭の乳牛後継牛を導入し、かろうじて当面の乳量が確保されるとのことです。しかし、現在搾乳を行っている町の生産者7軒のうち3軒は後継者がいない状態と聞いています。これは町にとって危機的状況です。あらたに島外から若い酪農家を募り、町が酪農後継者の育成に動き出して欲しいものです。一方、牛乳工場の機械の老朽化に対しても町や都が支援し、安心して牛乳をつくれるよう施設整備をバックアップしてほしいと思います。島で生産し消費する美味しい八丈島牛乳を町ぐるみで守り、地産地消の運動を盛り上げたいものです。

島外から酪農家を募集し、後継者を確保する考えはありますか。また、八丈島牛乳を守っていくために町はどんな支援策を考えていますか。

答弁…島の酪農部会では島内で後継者を育成していくという要望がある。当面は町の「酪農ヘルパー」を育成していく。

再質問…酪農ヘルパーは何人いるのか。また牛乳工場の機械の老朽化について町は援助を考えているか。

答弁…ヘルパーは一人。また牛乳工場が大規模改修で補助対象になれば、援助していく。

リサイクルの火は消さないで

6月23日のデポジット実行委員会(私は公募委員として出席)において、町は、住民と事業者を対象にしたアンケートをもとにデポジットの中止を打ち出しました。突然の提案に対して、委員は戸惑いと驚きをかくせませんで。そして町に対して、たった1.2%の回収率のアンケート結果を中止の根拠としたことに対する疑問や、これまで漫然と続けてきた町の責任を問う意見、この事業の成果を無駄にしないよう、新たな代替案を提示して欲しいと言う要望を投げかけました。シール貼りや保管の手間を乗り越えて先進的な取り組みに協力してきた事業者も、リーダーとなるべき町に努力と熱意がなかった点を指摘しました。しかし、多くの課題を抱えています。これ以上続けるには限界があるとの認識はほぼ共通していたように思います。デポ委員会も昨年7月以来1年近く開かず、1年半も延長した試行期間中に何も具体策・代替案を示さなかったことに対して、町は責任を感じないべきです。また、デポジットという言葉を全国に広めた功績を無駄にしないよう、循環型社会を目指すための新たな取り組みを進めて、「先進地、八丈」を内容あるものにしてほしいと思います。

中央 VS 地方

…力関係を痛感した要望活動、5月13～15日…

来年度の予算獲得に向けた恒例の要望活動に、町長、議長とともに新議員の沖山芳清さん、小宮山建さん、私が参加。また、町人の職員2名も同行しました。主な要望内容は、空港港整備と離島におけるボードバンド整備、それに病院運営の支援などでした。13日は横浜の国土交通省関東地方整備局と川島忠一郎議員を訪問。14日の午前中は都、午後は国の関係機関に要望しました。15日は引き続き都への要望、午後はNTT東日本を訪問しました。



主に町長と議長が要望書を手渡して欲しいかたちで、関連する分野で各議員が質問と要望をするというも、都や国の役人は、「指導する」という姿勢で発言し、こちらはお願いするという立場。特に国の役人は「ハイワケました」と事務的な対応で手応えなし。官僚や役所の存在の大きさを痛感し、一地方議員として空しい思いをしました。

出発当日空港で、たまたま出会った支庁の方々に、「こんな無駄なこと止めた方がいいよ」などと揶揄(やゆ)された気がしますが、その意味は要望活動を経験してはじめてわかったような気がします。要望活動が予算獲得にどれだけ効果があるのかわかりませんが、日頃こうした活動に明け暮れる長のご苦労はよくわかりました。ただ、全国の自治体が毎年こうした活動を繰り返しているとしたら、その意義を考え直す必要があるかもしれません。

地方分権が叫ばれ、町村合併が推進されつつある今、さらに国は「三位一体の改革」を打ち出しています。補助金が削減され交付金が減らされ税源移譲が先送りされれば、小さな自治体はますます力を削がれていくのは目に見えています。どうすれば地方が自立できるのか、それには国が税源を大幅に地方に移譲する以外にありません。そして自治体独自で将来の計画をきちんと立てることでしょう。そんな思いを強くした要望活動でした。

ぶれいくたいむ

議会運営委員会、略して議運。今、議運では議会改革を進めています。その一つがここ数回議会の前に議運に主な議題と一般質問の内容のプリントが配られ、傍聴者から好評を得ました。議員と確実に議会改革が進められていることを実感しています。議員の議運委員会報告の取り扱いについても今後議論されると思います(議員には毎月報酬が出ているのに審議会に出席するとさらに報酬が出る点)。

中之郷田持組合から陳情書 総務文教委員会で審議

中之郷の田持組合から「管理型最終処分場と中之郷ごみ埋め立て処分場の隣接地に建設する案に反対する陳情書」が議長宛てに提出されました。環境問題に関わる内容なので、総務文教委員会に審議を付託されました(6月11日)。

これより前に、議員からも「陳情書」と「処分場候補地変更の要望書」が議長宛てに出されてきました。議長は、この「陳情書」と「処分場候補地変更の要望書」の双方を重く受け止め、住民の意向をくむ方向で動いてみるからしばらく時間がほしい、と申し出ました。私を含め、議員の多くは議長にゆだねることに同意したので、委員長は採択をせずに「継続審議」という結論を出しました。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)